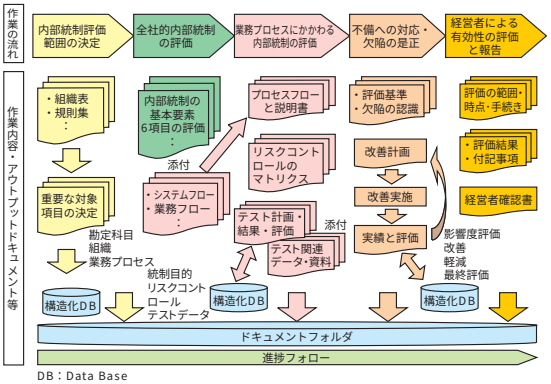
内部統制の整備・評価・報告までをフルスケールでサポートする“TOOLMASTER／IC”

“TOOLMASTER／IC”: Documenting, Evaluation and Reporting System for Internal Contorols Activities

“TOOLMASTER(注)／IC”は，2006年６月に成立した金融商品取引法(日本版SOX法：サーベンス・オクスリー法)への対応を支援するソフトウェア製品である。

この製品は，SOX法先進国である米国での実態調査で得だ“内部統制にITシステムを部分導入しても効果が小さい”という教訓を生かし，内部統制の整備から評価・報告書作成までに必要な全ドキュメント・データと全業務の体系的・一元的管理を提供する。製品設計には米国SOX法対応の実務経験者が参加し，内部統制の各業務の具体的な作業ステップを対話形式でガイダンスするユーザーインタフェースを実現した。内部統制のデータは，PDM(Product Data Management)技術を活用して業務の階層構造に沿って管理し，統制や試験データの変更履歴も管理できる。内部統制にかかわる業務は，作業の流れを詳細化した13種類のタスクとして定義し，責任者や作業者，進捗(しんちょく)情報，完了時の承認フローを設定できる。データに内部統制の進捗段階情報を持たせることにより，PLM(Product Lifecycle Management)技術を利用してタスク間の順序の制約性やデータに対する排他性の管理を実現している。また，ドキュメントの全文検索には，独自の高度な文書管理技術を適用している。このように，他分野で実績ある要素技術の活用により，実務に則したきめ細かい機能を提供している。



TOOLMASTER／ICによる内部統制のフルスケール・サポート

<取り扱い：三菱電機インフォメーションシステムズ㈱ TEL：03－5445－7438>

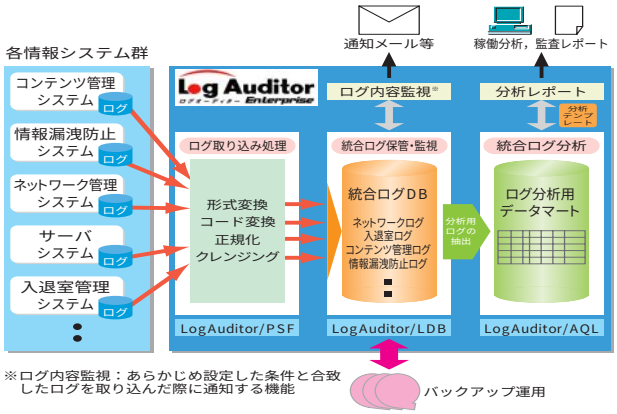
多種多様なログを統合し，一元管理する“LogAuditor”

“LogAuditor”Consolidating Logs from Disparate Information Systems to Create Centralized Log Database

企業内の内部統制やセキュリティ管理に対するニーズから，企業内ITシステムで採取されるログ(例えば，ネットワーク管理システム，入退室管理システム，コンテンツ管理システム，情報漏洩(ろうえい)防止システム等からのログ)を証跡として包括的に管理・分析することが強く望まれている。しかし，種々のログは形式がまちまちで，また，多量に発生するため，管理・分析は容易ではなかった。

当社の内部統制推進ソリューション“LogAuditor(注) Enterprise”は，大量に発生する任意形式ログの収集・蓄積・分析を可能とする統合的なログ管理機能を提供するスイート製品である。LogAuditor Enterpriseは，①データ圧縮技術(データ量を1/10以下に圧縮し，ストレージコスト低減と高速化を実現)，②並列処理技術(データ規模に応じた処理速度と高スケーラビリティの実現)，③高速文字列照合技術(ログ形式判別や，索引を使用しない検索を高速に実現)の当社独自の高速処理技術を活用して大規模なログの高速処理を実現した。

LogAuditor Elementsは，LogAuditor シリーズの中小規模システム向けエントリー製品として，自動ログ収集機能，分析テンプレートの提供により，導入を容易にした。分析テンプレートでは，動作時間のガンチャート表示や集計結果のランキング表示なども実現した。



LogAuditor Enterpriseはログの取り込みを行うLogAuditor/PSF，統合的にログを保管・監視するLogAuditor/LDB，統合的なログの分析エンジンであるLogAuditor/AQLから構成される。また，分析フロントエンドとなるMicrosoft Excel(注)アドインを利用できる分析テンプレートが提供される。

(DB：DataBase，PSF：Power Staging Facility，LDB：Log DataBase，AQL；Analytical Query Language)

LogAuditor Enterpriseのシステム構成

<取り扱い：三菱電機インフォメーションテクノロジー㈱ TEL：03－6414－8052>

MIND新統合運用管制センターによるITILプロアクティブ運用管理サービスソリューション

MIND ITIL Proactive System Management Service Solution by New Integrated Control Center

三菱電機情報ネットワーク㈱(MIND)は，顧客のICT(Information and Communication Technology)システムを24時間365日運用監視する統合運用管制センター(Integrated Control Center：ICC)を2006年8月にリニューアルした。主な特長は以下のとおりである。

(1) IT運用管理の国際的な標準となっているITIL(注)(IT Infrastructure Library)を導入し，統合運用管制システムを刷新することにより，運用監視業務の標準化・自動化を進めて対応の迅速化を図った。

(2) 監視データを分析してICTシステムの障害予兆を察知し，障害発生を未然に防止するなどのプロアクティブ(能動的)な運用監視サービスを提供する。

(3) MINDデータセンター内に新ICCを設け，セキュリティレベルの高いインフラ設備と運営管理によって，セキュリティ対策を大幅に強化した。

(4) MINDの運用管理サービスを利用することにより，顧客のICTシステムの可用性向上，エンドユーザーへのICTサービスの継続性向上に貢献するとともに，顧客のICTシステムのITILへの対応をバックアップし，運用の合理化を促進する。

MIND新統合運用管制センター

〈取り扱い：三菱電機情報ネットワーク㈱ TEL：03−5276−6821〉

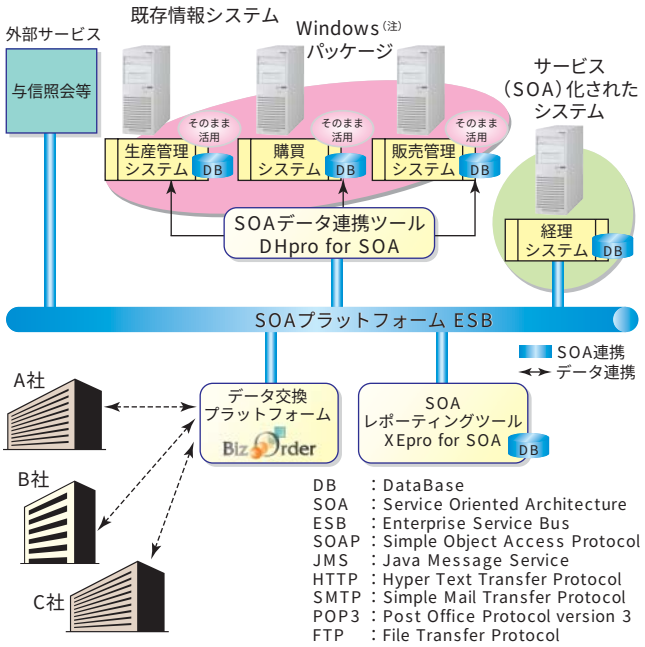
既存IT資産を活用し全体最適化を実現する“SOAプラットフォーム ESB”

“SOA Platform ESB”for Realizing Total Optimization with Existing IT Resources

SOAはアプリケーションプログラムをコンポーネント化し，これらを組み合わせることで情報システム全体を構築する設計手法として注目されている(SOAでは，このコンポーネントをサービスと呼ぶ。)。SOAによるシステム構築は，既存アプリケーション資産の有効活用，変化への迅速な対応，業務プロセスの可視化などに効果がある。

ESBはサービス間のメッセージ交換によりSOAを実現するミドルウェアで，SOAに基づくアプリケーション統合のインフラとして，メッセージのプロトコル変換，データ変換，さらに，メッセージのルーティングやキューイングなどをサポートする高機能なミドルウェアである。

SOAプラットフォーム ESBは，SOAの基本的なプロトコル(SOAP，JMS，HTTP)に加え，メール(SMTP／POP3)やファイル転送(FTP)などの既存プロトコルを標準でサポートしている。さらに，ファイル入出力，フロー制御，外部プログラム起動，文字コード変換など多数の実用的な機能も提供する。これにより，情報システムのSOA化にすぐ適用できるとともに，関連製品であるSOAデータ連携DHpro for SOAなどと組み合わせることで，SOA化が困難な既存アプリケーション資産のSOA化も可能としている。



“SOAプラットフォーム ESB”を中心としたシステム構成例

〈取り扱い：三菱電機インフォメーションテクノロジー㈱ TEL：03−6414−8052〉